

自主防災訓練 計画の手引き

1 訓練の目的・目標設定

- ・防災訓練は、災害時に住民一人一人が適切な避難行動を取ることができるようになるために行うものです。
- ・訓練を実施するに当たっては、訓練に参加する住民から何を学んでもらいたいのか（地域の災害リスクを知る、災害時の一時避難場所の確認、避難時の持出品…等）を決めましょう。
- ・地域にどのような人がいるのか確認することも大切です。訓練には、女性や高齢者、外国人のほか、障害のある人、事業所など多くの方に参加を呼びかけましょう。
- ・地域の防災士や消防機関など、専門的な知識や技術を持つ人に訓練内容についてアドバイスを求めることも一つの方法です。なお、町内会に防災士がいないなど訓練のやり方がわからない場合には、市や防災士会から講師を派遣することもできますので、ご相談ください。

2 防災訓練の実施メニュー（例）

① ハザードマップから見る地域の災害リスク確認

市が公表している各種ハザードマップ（洪水、津波、土砂災害、ため池、内水）を参考にしながら、地域の危険箇所や防災上の問題点を確認し、話し合って対応策を事前に決めます。

② 避難訓練

自宅から地域で決められている一時避難場所まで避難してみることで、避難にどのくらい時間がかかるのか、避難の際に使う経路で危険な箇所がないかを確認します。また、消防団と避難時の役割を確認することも大切です。

③ 消火訓練

消防署への火災発生通報や住民の避難誘導、訓練用消火器や消火用バケツを使用した消火の方法を学びます。消火器の正しい使用法や火災から身を守る方法など、必要に応じて消防団や消防署から指導を受けましょう。

なお、消火栓を使用した訓練の実施を検討される場合は、事前に「危機管理課」へご相談ください。

④ 避難行動要支援者関係訓練

支援される人とその家族に防災訓練の参加を呼びかけたり、本人を交えて実際の個別避難計画に沿った情報伝達、安否確認、避難誘導などについて確認しましょう。

⑤ 防災資機材の取扱訓練

地域で用意している防災資機材（発電機や投光器、救助用品など）を実際に使ってみることで、正しい使い方を学びます。

裏面に続く

3 訓練のポイントなど

○町内会長や役員がいなくても対応できるように

- ・災害発生時に、必ず町内会長や役員の方が地域にいるとは限りません。町内会長等が不在の場合や平日を想定した初動対応も考えておきましょう。

○継続的な訓練の実施について

- ・災害時に適切な避難行動を取ることができるようになるためには、繰り返し訓練を行う必要があります。
- ・地域の行事で防災資機材として備えている発電機等を使って資機材取扱い訓練を兼ねるなど、定期的に訓練を実施する体制を整えましょう。

○消防団との連携について

- ・消防団と災害時の役割を確認し、連携した訓練を実施しましょう。

4 参考資料等

上越市防災委員会（事務局：市民安全課）では、自主防災組織や町内会の防災活動を支援するため、車いすやリヤカー、水消火器など訓練用資機材のほか、啓発用の防災DVDやプロジェクター、スクリーンなどを貸出します。また、自主防災組織訓練マニュアルや各種防災パンフレットを作成していますので、防災訓練の内容を考える際の参考資料として、ご活用ください。



上越市自主防災組織
訓練マニュアル



上越市自主防災組織
初動対応マニュアル

※上記マニュアルは市ホームページにも掲載しています。

上越市ホームページ＞よく見られるページ 組織で探す＞防災危機管理部
市民安全課（原子力防災対策室）＞地域防災に関すること ＞自主防災編